

小松工区工事費用が記載された工事説明看板



小松工区矢板護岸工事現場で掘削作業が始まっていた



小松工区の掘削土砂の水上輸送が始まる。輸送先？



第1堰下流右岸の矢板打工事。



4月14日甲武橋水位 1.22m時の2号堰の様子



4月19日甲武橋水位 0.76m時の2号堰の様子

河口付近では矢板護岸工事も終盤を迎え掘削工事と土砂の海上運搬が始まった。台船の作業員に運搬先を訪ねたが教えてもらえなかった。

1号堰下流右岸の低水護岸に矢板が打ち込まれた。河口部のように拡幅目的の矢板工事ではなさそうで、犬走りは元通り埋め戻される模様で、元通りになりここに矢板が打ち込まれたことも忘れられるだろう。

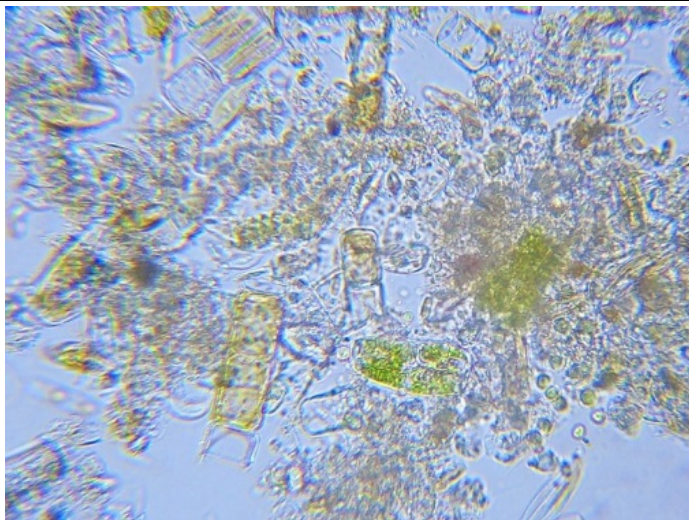
工事に伴う濁水は見られず、生物に悪影響を及ぼしているようには見えない。工事区域は立ち入れないが、その他の場所には、今まで通り釣り人が集まっていた。確証はないが魚道に渡り梯子が置かれウナギ稚魚狙いの人が来ているような感じだった。



3号堰で飛ぶアユは確認出来なかったがコサギが捕食



川底はカワシオグサが繁茂し非常に汚れた印象を受ける



比較的きれいな石の表面には藍藻・珪藻がついていた。



付着生物の中に、見た事のない水生昆虫が混じっていた



住吉川では昨年同様アユの群れを観察する事が出来た。



住吉川で捕まえたモンカゲロウが水質の良さを示す

潮止め堰は最高位に引き上げられたまま。1号堰は落差少なく水量も多く遡上確認不能、2号堰も小枝?で近寄れない。3号堰ではコサギが集まり狂ったように捕食していた。4月22日4号堰でもコサギが捕食していた。しかし何か飛ぶところは何れの場所でも観察出来なかった。住吉川も昨年同様遡上アユが観察出来た。武庫川と住吉川では透明度に大きな違いがある。武庫川は一面カワシオグサに覆われる汚れて見える。住吉川はコケがつく程度できれい。

住吉川の付着生物は藍藻が中心の比較的単純な生物層だっのに対し、武庫川では、藍藻・珪藻・名前も知らない小さな虫、羽化した水生昆虫まで棲息しており複雑多様な生物層だった。アユにとってどちらの環境を好むのか分からない。魚道でアユを捕まえた鵜も観察出来てアユが豊作だったのかも知れないが、昨年に劣らない印象を受けた。